

演題

地域福祉活動を支える

ボランティア活動の重要性

九州大谷短期大学 福祉学科教授 中村秀一氏



「大町町民支援のためのボランティア講演会」に多数の御参加ありがとうございました。講演内容は5・6・7ページに掲載があります。また、ケーブルテレビで7月下旬放映されます。

CONTENTS

- 予算・決算報告……2～3ページ
- 話題あれこれ …………… 4ページ
- 【講演】ボランティア活動の重要性 ……5～7ページ
- お困り事相談 …………… 8ページ



おおまち



社協だより

第 52 号

2014年7月

大町町社会福祉協議会は、大町町総合福祉保健センター（美郷）の中にあります



この広報誌は、赤い羽根共同募金配分で発行しています

平成 25 年度 一般会計決算

収入

(単位：円)

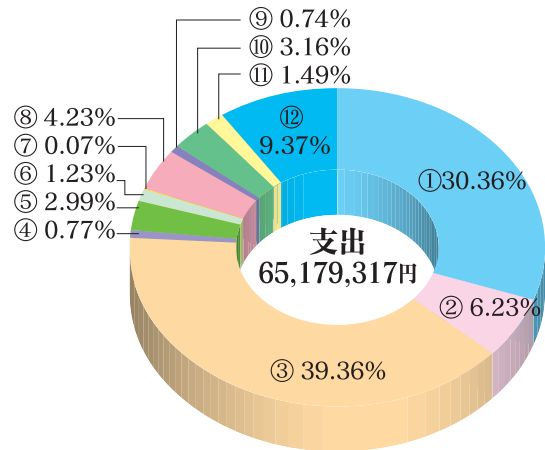
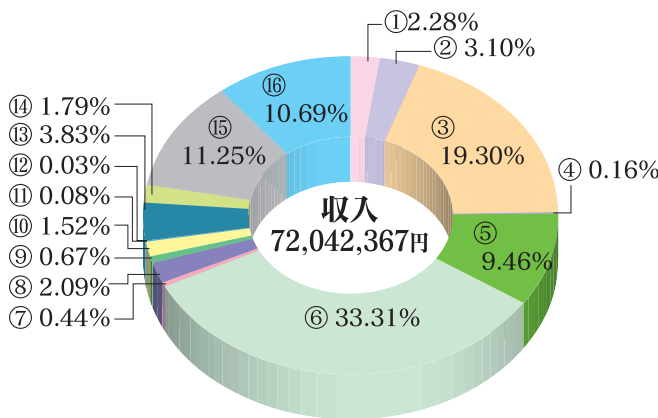
① 会費収入	1,645,200
② 寄附金収入	2,235,910
③ 経常経費補助金収入	13,903,442
④ 助成金収入	112,000
⑤ 受託金収入	6,812,834
⑥ 事業収入	24,001,498
⑦ 貸付事業等収入	320,000
⑧ 共同募金配分金収入	1,503,984
⑨ 負担金収入	476,400
⑩ 運営費収入	1,098,949
⑪ 雑収入	55,668
⑫ 受取利息配当金収入	14,650
⑬ 経理区分間繰入金収入	2,758,383
⑭ 施設整備等補助金収入	1,292,210
⑮ 積立預金取崩収入	8,109,440
⑯ 前期末支払資金残高	7,701,799
歳入	72,042,367

支出

(単位：円)

① 人件費支出	19,787,715
② 事務費支出	4,061,257
③ 事業費支出	25,656,471
④ 貸付事業等支出	502,000
⑤ 共同募金配分金事業費	1,950,255
⑥ 助成金支出	793,600
⑦ 負担金支出	48,200
⑧ 経理区分間繰入金支出	2,758,383
⑨ 固定資産取得支	483,000
⑩ 積立預金積立支出	2,056,826
⑪ 退職共済預け金支出	973,010
⑫ その他の支出	6,108,600
歳出	65,179,317

次年度繰越金 6,863,050



障がいのある方のために

- ・ふれあい作業所へのボランティア活動
- ・知的障害者ボランティア活動支援
- ・車イスの無料貸し出し
- ・身体障害者交友会への助成・育成
- ・あんしんサポート事業
- ・手をつなぐ親の会への育成協力

子供達のために

- ・紙ふうせん(七夕おはなし会・クリスマスコンサート)への協力
- ・おはなし宅急便(読み聞かせ)への協力
- ・母子連への助成・育成
- ・中学3年生へのほたまち激励会
- ・子供の遊び場・危険箇所点検
- ・青少年非行防止
- ・地域福祉活動活性化メニュー事業

共同募金会事業

- ・赤い羽根共同募金の募集
- ・歳末たすけあい運動募金募集
- ・災害見舞金支給

高齢の方のために

- ・高齢者困りごと支援事業
- ・独り暮らし老人会食会
- ・金婚祝賀会の開催
- ・老人趣味クラブ発表会
- ・老人趣味の作品展
- ・シルバー人材センター運営
- ・老友クラブ連合会への協力
- ・町内ゲートボールグラウンドゴルフ大会への協力

その他の事業

- ・初盆を迎えられる家庭への供物
- ・門松門標の配布
- ・男性の料理教室
- ・ボランティア活動支援
- ・貸付事業・社協だよりの発行
- ・福祉のつどい開催
- ・心配ごと相談
- ・タブレット・パソコン講座の開催
- ・健康まーじゃん教室・囲碁教室の開催
- ・各種講習会の開催

日本赤十字社事業

- ・災害時の生活救急物資、見舞金の支給
- ・災害義援金、援助金の募集
- ・救急法等講習会の実施
- ・日本赤十字社社資の募集



社協事業



平成 26 年度 一般会計予算

大町町社会福祉協会では、平成 26 年度は下記重点目標を掲げ次のような予算に基づき事業に取り組みます。

重点目標

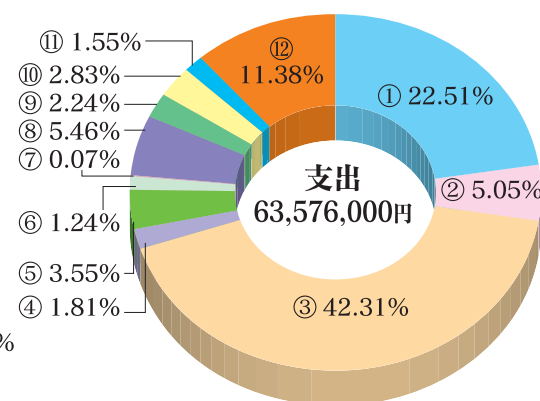
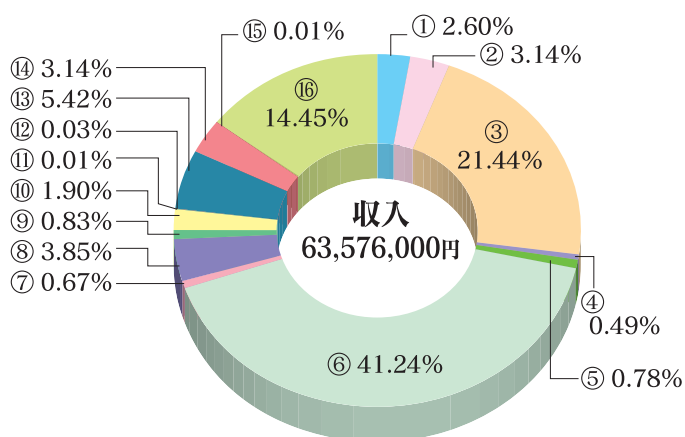
1. 行政との連携による防災意識向上の推進
2. 「地域福祉活動助成事業」による地域連携の人脈作り
3. 高齢者の困りごと支援と地域福祉ネットワークの構築
4. 社協だより、ホームページによる情報提供と広報活動の充実

■ 収 入 (単位：円)

① 会 費 収 入	1,656,000
② 寄 附 金 収 入	2,000,000
③ 経常経費補助金収入	13,632,000
④ 助 成 金 収 入	314,000
⑤ 受 託 金 収 入	501,000
⑥ 事 業 収 入	26,224,000
⑦ 貸付事業等収入	431,000
⑧ 共同募金配分金収入	2,448,000
⑨ 負 担 金 収 入	530,000
⑩ 運 営 費 収 入	1,210,000
⑪ 雑 収 入	4,000
⑫ 受取利息配当金収入	22,000
⑬ 経理区分間繰入金収入	3,439,000
⑭ 積立預金取崩収入	2,000,000
⑮ その他の収入	1,000
⑯ 前期末支払資金残高	9,164,000
歳 入	63,576,000

■ 支 出 (単位：円)

① 人 件 費 支 出	14,315,000
② 事 務 費 支 出	3,213,000
③ 事 業 費 支 出	26,904,000
④ 貸付事業等支出	1,152,000
⑤ 共同募金配分金事業費	2,262,000
⑥ 助 成 金 支 出	794,000
⑦ 負 担 金 支 出	49,000
⑧ 経理区分間繰入金支出	3,439,000
⑨ 固定資産取得支出	1,426,000
⑩ 積立預金積立支出	1,801,000
⑪ 退職共済預け金支出	987,000
⑫ 予 備 費	7,234,000
歳 出	63,576,000



東日本大震災復興支援義捐金を寄託

杵島炭鉱変電所跡活用推進会（代表 大西奈々美氏）は、6月21日(土)に第4回目の東日本大震災復興支援チャリティーコンサートを開催し、集まった義援金を寄託されました。



日本赤十字社佐賀県支部を通じ、被災地へ送られました。ありがとうございました。

いけばな大町子ども教室開講式



5月31日(土)開講式に合わせて、役場駐車場南側にコスモスの苗200本を植えました。子どもたちは水やりしながら生育過程を観察するとともに、いけばなの教材として利用します。



大町町地域福祉活動助成事業

申請団体に交付金

町内で福祉活動を支える12団体に対し平成26年度「大町町地域福祉活動助成事業」の要綱に基づき、助成金が交付されました。



申請団体	事業名	代表者
畑ヶ田手前味噌連	畑ヶ田手前味噌連	梶原松子様
畑ヶ田融和会	畑ヶ田融和会	梶原美和子様
さくら会	健康・生きがいづくり事業	野崎光子様
ひばりサロン	地域女性交流サロン	嘉村初枝様
鎮守の森(地域の絆)をまもる会	世代間交流事業	堅固勲様
ハンドベル・虹の会	ハンドベルによるボランティア活動	一ノ瀬雅子様
杵島炭鉱変電所跡活用推進会	遊びと学び(れんが館で遊ぼう!)	大西奈々美様
昭和通り若葉会	いきいき事業	山口信子様
花子会	花子会	黒岩洋子様
姫ゆり会	三世代交流事業	木下正義様
ひまわり会	異世代交流	藤瀬興治様
栄町 サクランボ会	栄町区内 ふれあい交流事業	本村悦子様



講演 地域福祉活動を支える ボランティア活動の重要性

講師／九州大谷短期大学 福祉学科 教授 中村 秀一氏

6月14日、大町町民支援のためのボランティア講演会を開催致しました。当日はたくさんの方の町民の方に御参加頂きありがとうございました。熱のこもった御講演の要旨を掲載いたします。



プロフィール

なかむら しゅういち
中村 秀一

- 昭和 35 年生まれ
- 昭和 60 年 4 月～平成 13 年 12 月
福岡県社会福祉協議会に勤務
- 平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月
鹿児島国際大学 大学院
福祉社会学研究科
社会福祉学専攻 修了
- 平成 16 年 4 月～現在
九州短期大学 福祉学科
専任講師、准教授を経て
現在、教授
- アウトドアサークル顧問
(今年創設 10 周年)

著書 (共著)

- 『現代社会福祉概説』中央法規出版 2004 年
- 『現代社会保障論』学文社 2004 年
- 『新現代社会保障論 (改訂)』学文社 2006 年
- 『現代公的扶助論』学文社 2006 年
- 『社会福祉概説』放送大学鹿児島学習センター 2007 年
- 『児童福祉の発見』あいり出版 2008 年
- 『現代社会保障論 (改訂)』学文社 2009 年
- 『現代公的扶助論 (改訂)』学文社 2009 年
- 『社会福祉・社会保障』学文社 2010 年
- 『新社会福祉・社会保障』学文社 2011 年
- 『改訂社会福祉・社会保障』学文社 2013 年 (予定)
- 『社会福祉辞典』学文社 2013 年

研究論文

- ・『児童委員制度の歴史的変換と課題』2004 年
- ・『民生委員制度の精神性と児童委員制度との関係的課題』2005 年
- ・『女性民生委員・児童委員の歴史的役割と特性』2006 年
- ・『民生委員・児童委員欠員問題に関する一考察』2009 年
- ・『児童委員活動の難しさの意味を考える』2011 年

ボランティアという言葉は古くからいろいろいわれているんですね。ボランティアとなると「どうしたらいいかわからない」「どうかかわっていいかわからない」「ボランティアばせんばいかんてばい、なんかおっくうだなあ」「人からの世話を受けるのはなんか悪いなあ」と、そんな中で生きていかなんかいけない、というのにはちよつと残念ですよね。したがって今日はボランティアをする際の精神・心の持ち方、考え方についてお話をいたしたいと思えます。

♥ ボランティアって何だろう？

基本的にはボランティアって自発能動の世界なんですよね。自発能動とはやらされではなく、「〜したいんだ」と思わなくっちゃいけない、「〜しないとイヤ」と思うと、ちよつと苦しいですよね。「〜したい」と思えばいい「人を支援したい」と思えば大町町はともいい町になりますよね。今日はここに狙いをもっていきたいんです。

また2つ目に、ボランティアは恋愛に似ています。恋愛したらどうなります。ワクワクしたり、ドキドキしたりします、テンションが高くなりますよね。対人支

♥ ボランティアって自分自身の問題

援というのは、相手のためになります。自分自身に返ってくるんですね。相手を確認する、受け入れることにより元気になるように人はできてくるんですね。

3つ目に、(ボランティアは)自分自身の生活の問題なんです。65歳が高齢者と呼ばれるかどうかの境目です。年を取ると明らかに誰かに支援してもらう可能性が高くなります。

今、在宅で生活している大町町の人達で、ボランティアして手助けをしようとしている人でも、あと10年もすれば逆の立場なってしまう





せんか？ボランティアは困っている人だけの生活の問題ではないんです。近い将来自分に回ってくる、私の問題でもあるんです。

4つ目に、対人支援は特別なことではなく、自身の生活の一部ということです。今は隣の顔が見えない時代、隣にどんな人が住んでいるのかわらない時代なんです。大町は田舎だからまだ隣人の顔が

見えるからいいんです。都会では人から支援を受けるのが怖い、本当に信じていいの怖い時代なんです。不信の時代に皆さんは人のお世話をしようとしている、めちゃくちゃ大変なことなんです。支援が「真心よ」と、信じてもらわなくちゃいけないんです。

♥福祉教育ってなに？

5つ目に、ボランティアはみんなが当たり前にできる福祉教育に通じる活動なんです。

福祉教育って何だと思いませんか？私は、福祉教育は人創りだと思います。じゃあ、どんな人を創るの？どんな子供、学生、大人を創るか？私は“優秀”な子を創りたい。優秀というのは学問に秀でるのでなく、優しさに秀でた、人に優しくできる人間に育てたい、と思っっています。地域で人に優しくする姿を子供たちに見せてあげてください。これが福祉教育なんです。

私は、大学で人創りをしています。私の勤務する大学は

筑紫野市にあります。対人支援の学科ばかりの大学です。2年間で優しさにあふれた人間として社会に送り出さないとけません。どうしたら優しさに秀でた人間に育て上げられるか？手っ取り早いのはサークル活動です。私は10年前からずーっと野外活動・キャンプを学生と一緒に年中やっています。費用は大体1回2200円から2500円くらい。土曜日、授業が終わって暗くなって出発します。泊りはバスの中です。トイレもあり、明るく安全なんです。で、学生は何をしているかというと、寝ないで話をしているんです。全く知らなかった学生同志が悩みを話し合っているんです。

人は生活の問題で悩むと、最初に自分で何とかしようと悩むんですね（自助）。でも自分で解決するには限界がある。どうするかというと、他人に相談したいが（共助）、他人が信頼できない時代でどこに解決の糸口を求めるとかいうと、他人を飛び越えて、公（行政）にお願いしようとする（公助）。大きな問題はいいとしても小さい問題はどうにもならない。学生も同じなんです。自分でどうにもならない、学生同士で解決できない時「先生、死んでよかね。」と、電話がかかってくるんです。信頼関係がないと、電話はかかってきません。私は、サークル活動で信頼関係を作っているんです。

♥福祉社会の大変革の時代へ

次に行きます。福祉社会の大変革の時代へということですが、高齢者の受けるサービスが大きく変わろうとしています。単に負担の割合が変わろうとしているということではなく、「要介護状態にならないように町民みんなを支え合おうね」という時代に入ってきたということなんです。日本全国そうゆう状況になってきているんです。公的制度の果たす役割は大きい、でも本当にそれだけで幸せにできるんでしょうか？福祉の問題は間違いない生活の問題なんです。昭和

♥公助と共助

20年終戦がありました。今より終戦の時はすさまじかったです。国民みんな貧困に喘いでいました。生活の問題は大なり小なりあったでしょうが、問題が大きいと解決できず気が沈み、自分らしさがなくなりませんか？自分らしさを取り戻すために軽くしたい、解決し自分らしさを取り戻したい。自分らしさが取り戻せると、幸せになれるんです。これが福祉なんです。

高校の教科書には福祉Ⅱ幸せの問題です、と書いてあります。福祉が充実していないと幸せになれない。公的制度の果たす役割（公助）は非常に大きい。福祉の充実の問題は行政の責任であることには間違いはないんですが、しかし行政にばかり求めてはいけません。生活の問題は多種多様で法律で、すばっすばと解決することができないんです。戦後から今日までいろんな福祉に関する法律、制度、サービスが制定されました。公助の法律が増えたこ



とにより人は幸せになつていないといけません。でもこの5年間自殺者は3万人程度で推移しています。昭和20年代に生きていた人は、大変でした。御主人が戦死して子供を抱え生活できないため、橋から身を投げようとするときに「ちょっと待たんかー」と、後ろからしがみつき、説得する人がいたんです。食べれない人のために、カボチャやキュウリ、ナスを軒下に黙っておいていく、そんな共助の精神があつたんです。地域とはそんな共助の精神があつたんです。

♥ ボランティアするってどういうこと

今、その共助の精神が下がっています。下がっていると感じたらどうしますか？ 上げるしかないんです。もともとある人助けをしようとする精神を、大町を中心に盛り上げてもらいたい。実は、今どの自治体でもこのことに気付けています。すなわち人が人をちゃんと世話できる

精神を、作っていかうという考えに行きついている。ボランティアするっていうことは、まさにこれなんです。行政とともに、社協とともに住民一体となって共助の精神を復興させようということなんです。

先に進みましょう。大町は高齢化率高いですか？ 高齢化率が高いというのは単に高齢者が多いということではないんです。若い世代が少ないから高齢化率が高いんですね。平均寿命が85歳とすると30年もすると町が消滅する。これが怖い。じゃあどうやって人を集めるか？ 住みやすい町を作ればいい。介護が必要になっても、在宅で生活したいと思えば、なんか人が近寄ってくれて不便を感じないとか、「なんかあつたかいね」と言える町、そういう町に人は集まる。共助の町を目指してほしいと思います。そのためにボランティアをやってほしいです。

♥ 社協とは

サイレントプアーという番

組がありました。社協のドラマで、ごみ屋敷の問題でした。ごみ屋敷におばあちゃんが一人住んでいて、住民から苦情が出て、おばあちゃんは片づけないかんことはわかっていながら外に出ないし、片づけない。住民は役場に言うが、役場は法律、条令がないので立ち入れない。役場は社協にどうにかしてという。社協は先駆的（実験的）だから、いいなと思ったらやれるんです。民間だから。でもここで社協がごみを片づけてしまうと行政と同じことで（公助）意味がないんです。社協は住民を巻き込んで、「共に生きましよう」という町を作る団体なんです。すなわち、「一人の不運も見逃さない、法律が充分でなくても、住民の力で互いに助け合っている町」っていう町を作る、これが社協なんです。じゃあどうするかというと、なんでゴミがたまつたか聞き、おばあちゃんの怠慢でなく、一人息子が交通事故で亡くなり無気力になってどうでもよくなった。この時、周りが異変に気づき「おばあちゃん大丈夫か？」という

人が一人でもいたら、おばあちゃんはどうならずに済んだかもしれない。この問題は、孤立の問題なんです。

♥ 結局は『自分に』『自分たちに』

寿命まで笑顔で、自分らしく生きたい。誰でもそう思います。でも自助では幸せにならない人がいます。「死ぬ。」と言われたら、「ちょっと待ってよ。」と言うよね。まずは止めますよね。どうしたらその場を立ち去れますか？ とりあえず「死なん。生きる。」と言われたら立ち去れますよ。ね。「死ぬ。」という人に「生きる」という生命力を打ち込む、生きる力をどうやったら与えられるんですか？ 希望!! 未来を信じる力。「生きて、生きて、何とかこの問題をクリアしていこうよ、未来は大丈夫よ！」と信じさせることなんです。無責任でもいいんです。要は元気にすればいいんです。励ますって方に力と書きまます。人の言葉は、万の力になるんです。そのために支援する人は、元気でなけ



ればいけません。ボランティアをしたら必ず「よかつたよ」となれるんです、そう信じてください、未来を。大変なことをすると自分も世の中も大きく変わるんです。自分たちの幸せは自分たちで掴む。結局は自分に返ってくるんです。人は人によって育てられます。互いにいいところを見ながら、この町をどうしていくかと、今一度今日、考える機会になっていただけたら幸いです。御静聴ありがとうございました。



「お困りごと」相談に応じます

利用対象者

町内の独り暮らしの高齢者 又は 高齢者のみ世帯

ゴミ出し・お買い物・高いところの荷物の出し入れ等・・・
ちょっとご近所には頼みにくいこと、ありませんか？

チケット【100円券・10枚綴り】で解決できます！

まずは 大町町社会福祉協議会 へお電話を！！

☎0952-71-3001

例えば…

※危険な作業は
除きます



町指定場所への
ゴミ出し
100円



室内の
電球取り替え
100円



町内での
お買い物
代行
200円



浴槽の清掃
200円



ボタン付け等の
簡単な裁縫 **200円**



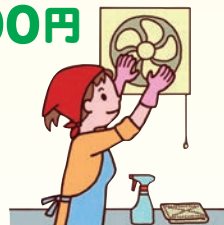
高い所の
荷物の
出し入れ
300円



庭掃除
500円

(草取りを除く1時間程度の軽作業)

換気扇掃除
(1時間程度の軽作業)
500円



玄関までの
粗大ゴミ移動
(ステッカー代は別費用)



600円
(2人分)

チケットは **100円券 × 10枚綴り** で **1,000円** です

大町町社会福祉協議会でお買い求めください。

大町町大町 5000 番地 (大町町総合福祉保健センター美郷内)

Tel 0952-71-3001

説明とお届けに
伺います

～この事業は「佐賀県社会福祉協議会地域福祉活動活性化メニュー事業」の助成金を受けて実施します～

